

Winter Festa 2011

スタートダッシュセミナー

<セミナー2>

TAC戦術公開

「簿記・財表の効率的学習法」

TAC税理士講座 1/5(木)より本格開講！

※ 先行クラス 12/17(土)～

各コース初回講義を、無料で体験受講できます。

開講日に、各校受付へ直接お越しください（予約不要）。

※ コース開講日程につきましては、「通学パンフレット」をご覧ください。

TAC 税理士講座

目 次

	ページ
テーマ0 はじめに	1
テーマ1 簿記論の学習	2～7
テーマ2 財務諸表論の学習	8～13
テーマ3 簿財同時受験のための学習法	14～25
テーマ4 学習時間との兼ね合い	26

テーマ0 はじめに

本日は、お忙しい中、当セミナーにお越しくださいましてありがとうございます。

当セミナーは、1月から税理士試験の会計科目である簿記論・財務諸表論を学習される方に向けて、それぞれの科目の効果的かつ効率的な学習方法を説明するものとなります。

また、これらの科目は、同時に学習すると相乗効果が得られます。それを最大限引き出すための学習法についても説明します。

初めて税理士試験を受験される方は、勉強を開始するにあたって、様々な疑問や不安を抱えていらっしゃると思います。そのような疑問点・不安点を解消していただき、1月からの本格的な学習の良いスタートを切るのに少しでもお役に立てれば幸いです。

テーマ 1

簿記論の学習

1 「簿記論」の概要

1 出題範囲

「簿記論」は企業の経済活動をどのように記録し、計算するかを学習する科目です。

「税理士試験受験案内」では、出題範囲について次のように発表されています。

複式簿記の原理、その記帳・計算及び帳簿組織、商業簿記のほか工業簿記を含む。
ただし原価計算を除く。

上記の内容に関して、計算問題が出題されます。

なお、出題範囲の中に工業簿記とありますが、日商簿記検定2級及び1級で学習する原価計算基準の知識は必要ありません。簿記論で出題される工業簿記は、「商的工業簿記」とよばれ、商業簿記の知識があれば十分対応できます。

2 出題形式

3問形式（すべて計算問題）で出題されます。第一問と第二問は、それぞれ学者試験委員（大学教授）が担当し、第三問は2名の実務家試験委員（税理士・公認会計士）が担当します。配点は、第一問・第二問がそれぞれ25点、第三問が50点の合計100点となっています。

3 出題傾向

(1) 出題内容

① 第一問・第二問（学者試験委員）

学者試験委員の問題は、1題が総合問題、もう1題が個別問題で出題されます。総合問題では、1会計期間のすべての取引を集計したり、決算整理を行って、期末における勘定残高を算定するという問題が多く出題されます。一方、個別問題では、特定取引に関する仕訳や金額算定が、数題出題されます。

② 第三問（実務家試験委員）

実務家試験委員の問題は、必ず総合問題形式で出題され、そのほとんどが決算整理前残高試算表を出発点として、これに決算整理事項を加味して決算整理後残高試算表や貸借対照表・損益計算書を作成するというものです。また、実務に直結した論点からよく出題される傾向があります。

(2) ボリューム

日商簿記検定の問題の多くは、制限時間内にすべて解答できるボリュームですが、税理士試験の簿記論の問題は、非常にボリュームが多く、しっかり勉強した受験生であっても制限時間(2時間)内にすべてを解答することができません。

(3) 難易度

難易度は年によりバラツキが激しく、解答箇所のうち正解できるのがそのうち40%程度の年があれば、70%程度の年もあります。

(4) 合格基準

合格基準は「満点の60%(すなわち60点)」と公表されていますが、出題される問題の難易度やボリュームに関わらず、合格率はほぼ10~15%で毎年安定しています。つまり税理士試験は、全受験者のうち上位10~15%の人が合格する競争試験ということができます。



参考 最近5年間の合格率の推移

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
簿記論	14.9%	12.5%	14.2%	9.9%	12.5%

4 合格するためには？

すでに述べたように、税理士試験の簿記論は、2時間という制限時間内にすべてを解答できる問題は出題されません。しかしながら、本試験では問題のすべてを解答する必要はありません。満点の60%(つまり60点)以上が、公表されている合格基準だからです。

また、難易度が年によりバラツキがあるにもかかわらず、毎年一定の合格率を保っているのは、正解率の高い解答箇所に高い配点を置き、正解率の低い解答箇所は軽くする等の採点上の調整が行われているためです。したがって、難しい箇所が解答できたか否かではなく、受験生の多くが解答できる基本的事項をどれだけ確実に得点したかで合否は決まります。

合格のポイント

- ・ 2時間では解ききれないボリュームの問題が毎年出題される
- ・ 難易度に関係なく毎年一定の合格率を保っている
- ・ 合否をわけるのは基本的事項の正解率



全部解答しようとせず、基本的事項を確実に得点していくことが大切！

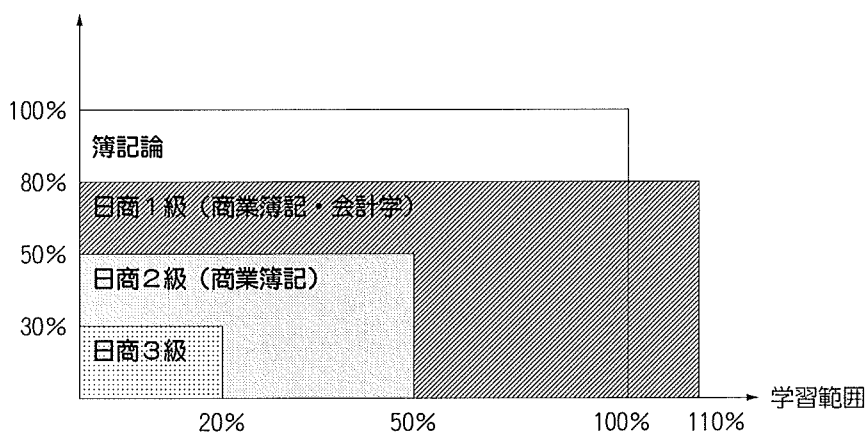
2 具体的な学習内容

簿記論では、日商簿記検定や税理士講座の簿記入門と同様に、会社が行う個々の取引や決算整理に関する仕訳や金額算定といった帳簿上の手続を学習していきます。

1 日商簿記検定との学習範囲の関係

日商簿記検定と税理士試験の簿記論の学習範囲等の関係を示すと下記の通りになります。

問題の難易度・ボリューム



なお、決算整理後残高試算表や貸借対照表・損益計算書等の作表問題では、個々に行った会計処理を勘定科目ごとに集計する必要があります。したがって、税理士簿記論では、効率的な集計方法についても学習します。

2 日商簿記検定との学習項目の対比

簿記論の学習項目	日商簿記検定		
	3級	2級	1級
簿記一巡の手続	○	○	○
一般商品売買・棚卸資産	○	○	◎
特殊商品売買	×	○	○
現金・預金	○	○	◎
金銭債権・手形	○	◎	◎
有価証券	○	○	◎
有形固定資産・リース取引・減損会計	○	○	◎
無形固定資産・ソフトウェア	×	○	◎
繰延資産	×	○	○
研究開発費	×	×	○
貸倒引当金・その他の引当金	○	○	◎
人件費・退職給付会計	×	○	○
金銭債務・社債	×	○	◎
株主資本	×	○	◎
新株予約権	×	×	◎
税金・税効果会計	×	○	◎
外貨建取引等	×	×	◎
製造業会計	×	○	◎
本支店会計	×	○	○
建設業会計	×	×	◎
帳簿組織	×	○	○
推定簿記	×	×	×
組織再編・企業結合会計	×	×	◎
財務諸表	×	○	◎
連結財務諸表	×	×	◎

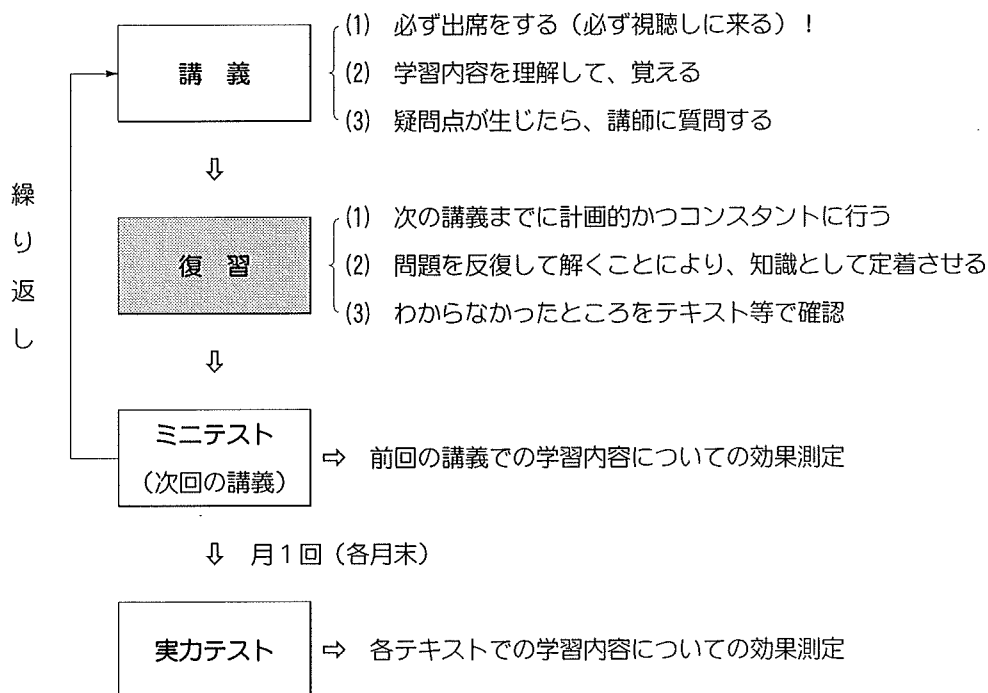
◎…同レベルで（あるいはそれ以上まで）学習済

○…基礎レベルは学習済。ただし、さらに知識の習得が必要

×…未学習

③ 具体的な学習方法

TACでの簿記論の学習スタンスは次のようになります。



1 講義

皆さんが学習を進める上で最も重要なのは、学習内容を正確に理解して覚えるということです。講師陣自らが研究・作成したテキストを用いて、初めての方にもわかりやすく講義を行います。必ず講義には出席をしましょう。

また、疑問点が生じたら、すぐ講師へ質問しましょう。講義時に直接できますし、質問電話やi-supportによるメールでの質問にも対応しています。

2 復習

その回の講義で学習した内容の復習は、トレーニング等を使用して、必ず次の講義までに終わらせるようにしましょう。なお、トレーニング等を解答した時に間違えてしまった箇所は、テキスト等を利用して確認をとりましょう。

3 ミニテスト・実力テスト

毎回の講義の冒頭でミニテストを実施します。これは、前回の講義での学習内容が理解できているかどうかの効果測定です。また、その月までに学習した論点の知識定着度を総チェックするため、月1回、実力テストを実施します。必ずミニテストと実力テストは受けて、その時点の自分の実力やウィークポイントを確認しましょう。

4 各教材の内容

1 基本テキスト

講義及び復習時における論点のインプット・ツールです。論点説明や設例を通じて、具体的な会計処理や金額計算方法について正確な知識を身につけていきます。

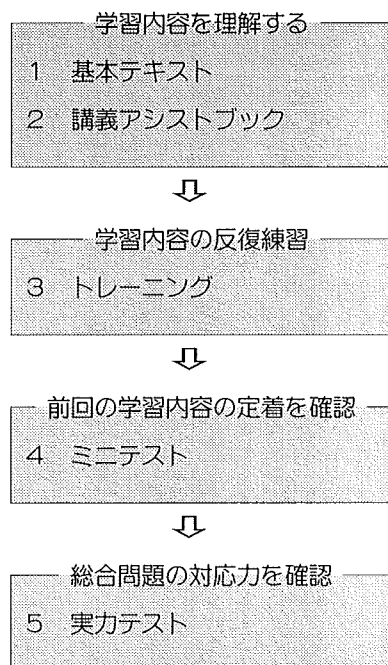
2 講義アシストブック

講義時に、基本テキストの設例に関する仕訳や計算式を自らの手で確認し、その理解を深めるためのツールです。基本テキストの設例は、各論点の内容を正確に理解するための最重要問題です。講義のみならず復習時にも、基礎的事項の確認ツールとしてご利用ください。

3 トレーニング

授業及び復習時における各論点のアウトプット・ツールです。基本テキストに連動した内容になっており、毎回の講義ごとに問題が明確に指示されているので、学習進捗度の指針にもなります。当教材の問題をスムーズに解答できるまで繰り返し練習して、講義で学習した内容を完全に自分のものにしましょう。

5 各教材を利用した場合の学習の流れ



テーマ 2 財務諸表論の学習

1 「財務諸表論」の概要

1 出題範囲

「財務諸表論」は、企業の状況（財務状況）を株主等に報告するための財務諸表（報告書）を作成するまでの考え方や約束事について学習する科目です。

「税理士試験受験案内」では、出題範囲について次のように発表されています。

会計原理、企業会計原則、企業会計の諸基準、会社法中計算等に関する規定、会社計算規則（ただし、特定の事業を行う会社についての特例を除く。）、財務諸表等の用語・様式及び作成方法に関する規則、連結財務諸表の用語・様式及び作成方法に関する規則

上記の内容に関して、理論問題（記述式）と計算問題が出題されます。

2 出題形式

3問形式で出題されます。第一問と第二問はそれぞれ学者試験委員（大学教授）が理論問題を担当し、第三問は2名の試験委員（税理士・公認会計士）が計算問題を担当します。配点は、第一問・第二問がそれぞれ25点、第三問が50点の合計100点となっています。

3 出題傾向

(1) 出題内容

① 第一問・第二問（理論問題）

理論問題は、各会計基準の内容や考え方が理解できているか否かを確認する内容が出題されています。また、基本的に文章を書かせる論述形式で出題されます。

② 第三問（計算問題）

計算問題は、決算整理前残高試算表を出発点として、これに決算整理事項を加味して貸借対照表・損益計算書を作成する総合問題が出題されています。ただし、株主総会提出用の財務諸表の作成が要求されるため、「会社法」や「会社計算規則」等で定められた内容・形式に沿って解答を行う必要があります。

また、総合問題に加えて、「会社法」や「各会計基準」の規定内容を問う個別問題が、数題出題されることもあります。

(2) ボリューム

最近の財務諸表論の問題は、簿記論と比べてそれほどボリュームが多くなく、しっかり学習した受験生であれば、時間内に解き終えることが可能となる問題が出題されています。

(3) 難易度

理論問題の難易度は比較的高めで、解答箇所のうち正解できるものが例年40～50%程度です。一方、計算問題の難易度はそれほど高くなく、解答箇所のうち正解できるものが例年70%前後となります。

(4) 合格基準

ここ数年、財務諸表論の合格率は15%前後で安定しており、他の科目の平均的な合格率（約12%）に比べて高い数字になっています。



参考 最近5年間の合格率の推移

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
財務諸表論	18.5%	15.2%	16.1%	16.0%	13.1%

4 合格するためには？

すでに述べたように、財務諸表論の理論問題は、比較的難易度が高い問題が出題されます。ただし、必ず解答できる箇所があるため、それを確実に得点することが大切です。また、理論問題に多くの時間を投入しないことも重要です。

一方、計算問題は、ここ数年比較的取り組みやすい問題が出題されているため、解答時間をしっかり確保して、得点を積み上げていくことが合格のポイントといえるでしょう。

合格のポイント

- ・ しっかり学習しておけば時間内で解き終わる程度のボリュームの問題が出題される
- ・ 理論は、比較的難易度の高い問題が出題されている
- ・ 計算は、比較的取り組みやすい問題が出題されている



- ・ 理論問題は、解答できる箇所を探して、それを確実に得点する！
- ・ 計算問題の解答時間をしっかり確保し、得点を積み上げていくことが重要！

2 具体的な学習内容

1 計算

計算問題は、規則（ルール）で定められた形式に沿って貸借対照表・損益計算書といった財務諸表を作成するというものです。よって、財務諸表論の計算では、規則の定めに従った財務諸表の作成方法について学習していきます。具体的には、区分、科目名、注記といったものとなります。

なお、簿記論では「勘定科目」により仕訳を行いますが、財務諸表論では「表示科目」により財務諸表を作成します。これらの科目は基本的に同じですが、一部異なるものがあります。また、注記とは、財務諸表に示した科目や金額等に関する説明文です。

2 理論

日商簿記検定3級・2級及び簿記入門では、理論の出題がなかったため、財務諸表論における理論はどのようなことを学習するのか不安を抱いている方も多いと思います。そこで、財務諸表論の理論とは何かについて紹介します。

会計処理及び帳簿記録に関して、「なぜ、そのような処理が必要なのか？」を考察するのが「会計理論」と言われるものになります。また、処理・記録の方法については、いわゆるルール・ブックとしてまとめられています。それが、「企業会計原則」等の企業会計の基準です。

理論問題では、これら企業会計の基準の内容が空欄補充や論述形式で出題されることから、それらの規定自体暗記と、これに加えて「なぜ、そのような処理が必要なのか？」「なぜ、そのような規定が作られたのか？」といった、規定の背後にある考え方も学習することになります。

3 簿記論の関連性

簿記論と財務諸表論は、出題範囲や学習内容において棲み分けがあります。

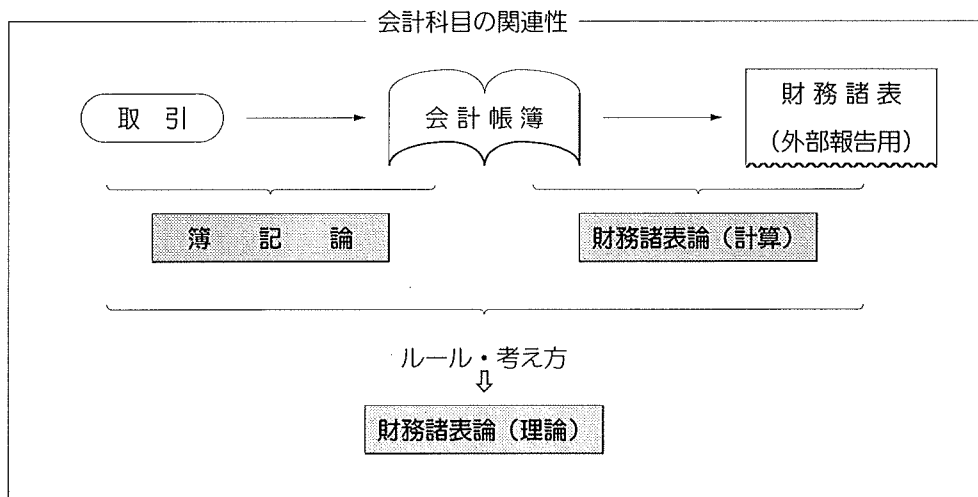
簿記論では、日商簿記検定と同様に、仕訳等を中心とした帳簿上の手続が出題されます。

したがって、学習内容も「計算」のみになります。

一方、財務諸表論では「計算」のみならず「理論」も出題されます。

計算は、株主等の外部の利害関係者に対して提出する財務諸表(貸借対照表・損益計算書)の作成問題が出題されます。そこでは、日商簿記検定や簿記論で学習した会計処理に加えて、「表示区分」、「注記」等といったものも学習します。

理論では、会計処理方法や表示方法に関するルールである企業会計の基準が記述形式で問われます。そこでは、規定自体を覚えるとともに、「なぜ、そのような処理を行うのか?」といった、規定の背後にある考え方も学習します。



3 各教材の内容

1 基本テキスト

財務諸表論で学習する計算についてまとめた解説教材です。難しい内容も図解等を使用して、分かりやすく解説しています。

2 講義アシストブック

講義時に、基本テキストの設例に関する仕訳や計算式を自らの手で確認し、その理解を深めるためのツールです。基本テキストの設例は、各論点の内容を正確に理解するための最重要問題です。講義のみならず復習時にも、基礎的事項の確認ツールとしてご利用ください。

3 トレーニング

基本テキストに連動した演習教材です。講義で学習した内容は、当教材を使用して反復練習し、正答率を上げ、解答作成時間を短縮していきます。毎回の講義ごとに問題が明確に指示されているので、学習進捗度の指針にもなります。

4 理論テキスト

財務諸表論で学習する理論についてまとめた解説教材です。詳細な解説や図解を行い、難解に見える会計学の理論を、具体的なイメージをもって理解しながら学習を進めることができます。また、企業会計の基準についても豊富に記載されています。

5 システムカード

財務諸表論の基本テキスト（理論テキスト）のエッセンスをまとめた手帳サイズの教材です。毎回の復習や試験直前のチェックに威力を発揮します。

6 ミニテスト

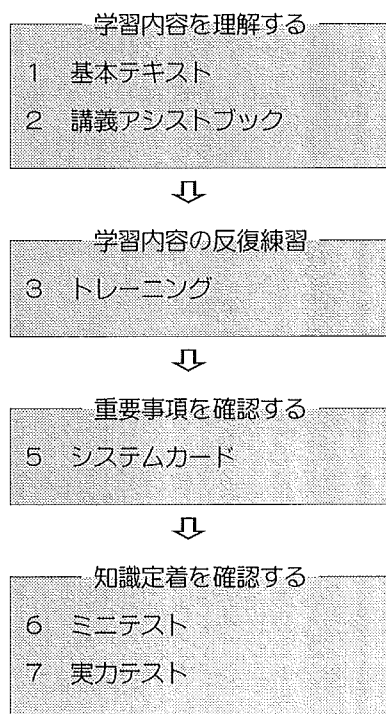
前回の学習事項をチェックし、知識の定着を図る確認テストで、毎回講義の冒頭で実施します。これにより自分のウィークポイントも発見できます。

7 実力テスト

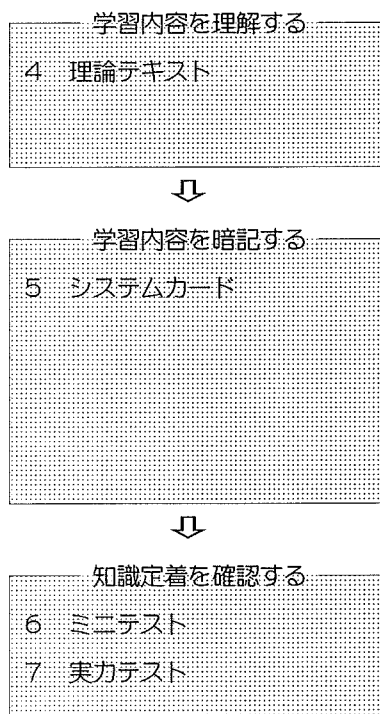
月1回実施する総まとめテストです。1カ月間で学習した内容が、どれだけ身に付いているのか確認できます。

4 各教材を利用した場合の学習の流れ

計 算 の 学 習



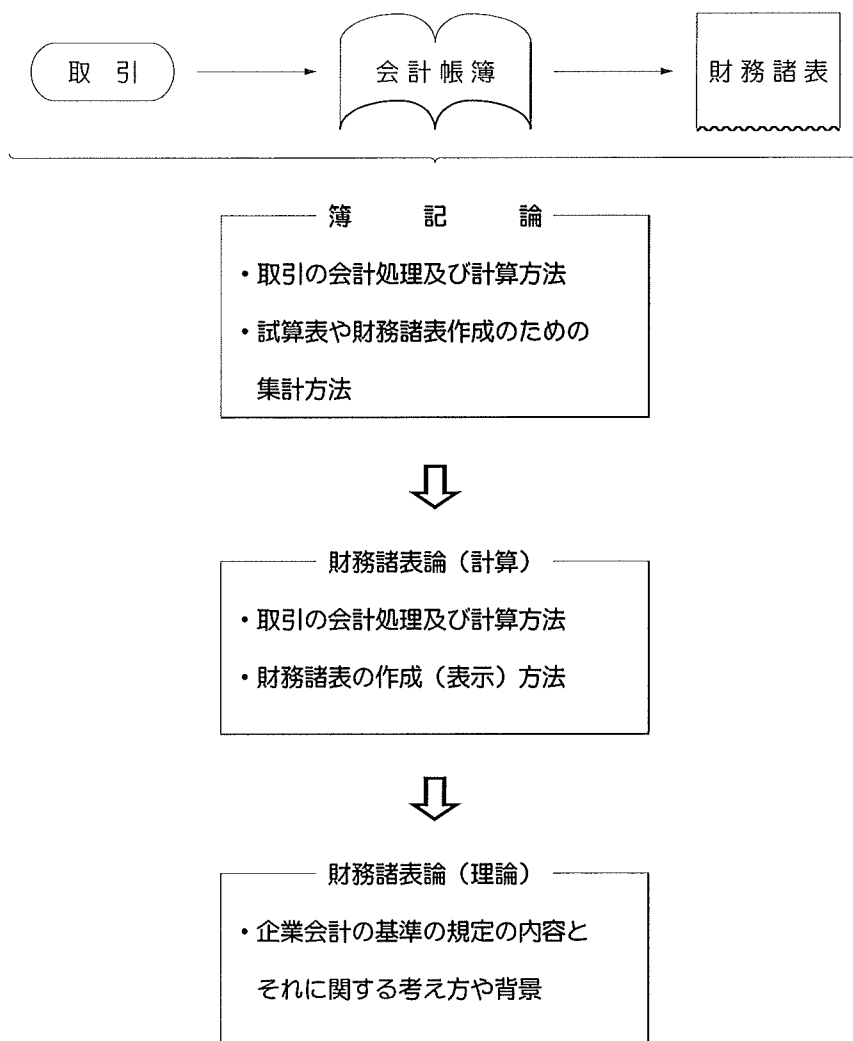
理 論 の 学 習



テーマ 3 簿財同時受験のための学習法

1 簿記論と財務諸表論の学習内容の関連性

簿記論と財務諸表論の学習内容の関係を図に示すと、次の通りになります。



簿記論と財務諸表論（計算）で学習する会計処理や計算方法は概ね同じものであり、同時に学習すると内容がかなり重複するため、学習時間を短縮できます。また、それぞれの科目で繰り返し同一の内容に触れることになるため、知識が定着しやすくなります。

さらに、財務諸表論（理論）でこれらの会計処理や表示を行う理由等について学習することで、各論点に関する理解が深まります。

同時学習のメリット

- ・簿記論と財務諸表論（計算）で学習する内容が重複するため、学習時間を短縮できる
- ・繰り返し同一の内容に触れることになるため、知識が定着しやすくなる
- ・財務諸表論（理論）で会計処理を行う理由等について学習するため、理解が深まる

2 簿記論と財務諸表論（計算）の出題形式

減価償却を例に簿記論と財務諸表論（計算）の出題形式を示します。

一 問 題

《簿記論》

次の資料に基づき、次の問に答えなさい。

問1 決算整理で必要となる仕訳を示しなさい。

問2 決算整理後残高試算表を作成しなさい。

《財務諸表論》

次の資料に基づき、次の問に答えなさい。

問1 貸借対照表及び損益計算書を作成しなさい。

問2 重要な会計方針に係る事項に関する注記を示しなさい。

【資料1】決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表 (単位：千円)			
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
建 物	500,000	建 物 減 価 償 却 累 計 額	90,000
器 具 備 品	60,000	器 具 備 品 減 価 償 却 累 計 額	12,000

【資料2】決算整理事項等

有形固定資産の減価償却方法は次のとおりである。なお、残存価額は取得価額の10%とする。

区 分	償 却 率	償却方法
建 物	0.02	定 額 法
器 具 備 品	0.20	定 率 法

— 答案用紙 —

《簿記論》

問1 決算整理で必要となる仕訳

(単位：千円)

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

問2 決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
建 物	500,000	建 物 減 価 償 却 累 計 額	
器 具 備 品	60,000	器 具 備 品 減 価 償 却 累 計 額	
建 物 減 価 償 却 費			
器 具 備 品 減 価 償 却 費			

《財務諸表論》

問1 貸借対照表及び損益計算書

貸借対照表

(単位：千円)

II 固定資産	
1 有形固定資産	
建 物	
減価償却累計額	
備 品	
減価償却累計額	

損益計算書

(単位：千円)

III 販売費及び一般管理費	
減 価 償 却 費	

問2 重要な会計方針に係る事項に関する注記

--

一 解 答

《簿記論》

問1 決算整理で必要となる仕訳

(単位：千円)

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
建 物 減 価 償 却 費	※1 9,000	建 物 減 価 償 却 累 計 額	9,000
器 具 備 品 減 価 償 却 費	※2 9,600	器 具 備 品 減 価 償 却 累 計 額	9,600

※1 $500,000 \times 0.9 \times 0.02 = 9,000$

※2 $(60,000 - 12,000) \times 0.20 = 9,600$

問2 決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
建 物	500,000	建 物 減 価 償 却 累 計 額	99,000
器 具 備 品	60,000	器 具 備 品 減 価 償 却 累 計 額	21,600
建 物 減 価 償 却 費	9,000		
器 具 備 品 減 価 償 却 費	9,600		

《財務諸表論》

問1 貸借対照表及び損益計算書

貸借対照表

(単位：千円)

II 固定資産	
1 有形固定資産	
建 物	500,000
減価償却累計額	△ 99,000
備 品	60,000
減価償却累計額	△ 21,600

損益計算書

(単位：千円)

III 販売費及び一般管理費	
減 価 償 却 費	18,600

※ 金額は上記決算整理後残高試算表参照

問2 注記

有形固定資産のうち建物は定額法、器具備品は定率法により減価償却している。

③ 財務諸表論（理論）

減価償却を例に財務諸表論（理論）の出題形式を示します。

— 問 題 —

減価償却に関して次の問1及び問2に答えなさい。

問1 減価償却の意義について説明しなさい。

問2 減価償却の目的について説明しなさい。

— 答案用紙 —

問1

問2

— 解 答 —

問1

減価償却とは、費用配分の原則に基づいて、固定資産の取得原価をその耐用期間における各事業年度に費用として配分することである。

問2

減価償却の最も重要な目的は、適正な費用配分を行うことによって、毎期の損益計算を正確ならしめることである。
--



参 考 減価償却の目的 ～理論テキストから抜粋～

＜ポイント＞

減価償却の最も重要な目的は、適正な費用配分を行うことによって、毎期の損益計算を正確ならしめることである。

【解 説】

減価償却の目的は、有形固定資産の耐用期間（使用期間）に、その有形固定資産の取得原価を適正に配分することによって、毎期の損益計算を正確に行うことである。このことに関して、連続意見書第三・第一・二は、次のように述べている。

減価償却の最も重要な目的は、適正な費用配分を行なうことによって、毎期の損益計算を正確ならしめることである。

さらに、適正な期間損益計算を行うためには、正規の減価償却によらなければならないとしている。

正規の減価償却は、固定資産の耐用年数到来時における売却価格または利用価格である残存価額および固定資産の使用可能期間である耐用年数を事前的に見積り、所定の減価償却方法に従い、計画的・規則的に実施されるものである。

4 具体的な学習方法

簿記論と財務諸表論(計算)では、共に会計処理方法を学習しますが、通常、簿記論が先行します。また、具体的な会計処理方法を押さえたあとに、財務諸表論(理論)で各論点について理論的な考え方等を学習します。よって、各論点について「簿記論」⇒「財務諸表論(計算)」⇒「財務諸表論(理論)」の流れに従って、学習を進めていくことになります。

簿 記 論

- ・取引の会計処理方法（仕訳で使用する勘定科目、金額の計算方法等）を身につける
 - ⇒①基本テキスト等を利用して、学習内容を確認する
 - ⇒②トレーニングを使用して、個別問題演習を行う
- ・試算表等を作成するための集計方法を身につける
 - ⇒③実力テスト等を使用して、総合問題演習を行う



財 務 諸 表 論 （ 計 算 ）

- ・財務諸表の作成方法（表示科目、表示区分、注記事項等）を身につける
 - ⇒①基本テキスト等を利用して、学習内容を確認する
 - ⇒②トレーニングを使用して、個別問題演習を行う
 - ⇒③実力テスト等を使用して、総合問題演習を行う



財 務 諸 表 論 （ 理 論 ）

- ・設問に対応し、重要語句を折り込んだ解答作成方法を身につける
 - ⇒①講義内容・理論テキストを通じて各重要論点のイメージをつかむ
 - ⇒②各重要論点のポイントを理論テキスト・システムカード等を使用して覚える
 - ⇒③各論点の会計処理や他の論点との関連づけを意識して学習を進める
 - ⇒④実力テスト等を使用して、問題演習を行う

5 学習計画を立てる

税理士試験は長丁場ですので、「学習の継続」こそ合格のカギといえます。また、簿記論・財務諸表論の2科目を合格レベルまでもっていくためには、計画的・規則的に学習を行う必要があります。そのためには、「週間（習慣？）スケジュール表」を作成し、それに基づいて実行していくのが一番効率的です。これを作成する上で、下記の事項を考慮してください。

1 優先順位を考えて、無理のないスケジュールを

無理な学習計画を立てたせいで、志半ばで挫折してしまう方も少なくありません。したがって、生活の中での優先順位を考えて、ゆとりをもったスケジューリングを心がけましょう。週間スケジュール表作成にあたっては、次の順序で埋めていくとよいでしょう。

- (1) コアタイム（睡眠、食事、移動、就業時間、大学講義、TAC講義等）を記入
- (2) 各科目ごとの復習する時間を記入
- (3) 余った時間はフリータイム（完全休息日を設ける等、必ず息抜きする時間を設ける）

2 生活リズムを朝型にシフトする

合格者の中には「生活リズムを朝型にして、学習時間を確保した。」という方がたくさんいらっしゃいます。夜の疲れ切った頭より、朝のすっきりした頭で学習した方が効率的だからというのが理由です。短い時間ではありますが、時間が制約される分、かえって集中することになり、効率的に学習できます。

3 復習するタイミング

(1) 講義を受けたらすぐ復習

学習内容を確実に身につけるには、講義を受けたすぐ後に復習するのが大変効果的です。まさに、「鉄は熱いうちに打て！」です。

(2) 計算は毎日学習

計算の知識は、反復練習が大変効果的です。30分だけの日があってもかまいません。毎日学習しましょう。

(3) 理論は、移動時間も利用

これも合格者の体験談ですが、「細切れの時間を有効利用した。」という事をよく耳にします。中でも移動時間はその代表例です。理論は暗記が学習の中心になりますので、暗記用の教材を常に携帯していれば、いつでもどこでも学習することができます。時間を上手に使い、効率良く学習して下さい。

4 学習すべき内容を事前に決めておく

「計算問題を10題解こう！」とか「理論1題を必ずマスターしよう！」というように、学習内容を事前に決めて、それをノルマとして学習しましょう。その方が集中力が高まりますし、達成感を味わうことでモチベーションも高まります。この小さな目標をコツコツ達成していけば、最後には大きな目標も達成できます。まさに「ちりも積もれば山となる」です！



参 考 1 週間のスケジュール

1 受験専念型（簿記論と財務諸表論の同時学習の場合）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡 眠	睡 眠	睡 眠	睡 眠	睡 眠	睡 眠	睡 眠
8:00	自 由	自 由	自 由	自 由	自 由	自 由	自 由
	移動(暗記)	移動(暗記)		移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	
10:00	復習(簿記)	復習(財表)	移動(暗記)	復習(簿記)	復習(財表)	移動(暗記)	
12:00	講 義 (簿 記)	講 義 (財 表)	バイト	講 義 (簿 記)	講 義 (財 表)	バイト	
14:00	休 憩	休 憩		休 憩	休 憩		
16:00	復習(簿記)	復習(財表)		復習(簿記)	復習(財表)		
18:00	移動(暗記)	移動(暗記)		移動(暗記)	移動(暗記)		
20:00	自 由	自 由	自 由	自 由	自 由	自 由	
22:00	復習(財表)	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(財表)	復習(簿記)	復習(財表)	
0:00	自 由	自 由	自 由	自 由	自 由	自 由	
2:00	睡 眠	睡 眠	睡 眠	睡 眠	睡 眠	睡 眠	睡 眠
4:00							

※ 移動時間を利用して財務諸表論の理論を暗記する

2 仕事両立型（簿記論と消費税法の同時学習の場合）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)		
8:00	自由	自由	自由	自由	自由	自由	
	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	
10:00						復習(消費)	
12:00						講義 (消費)	
14:00	会社	会社	会社	会社	会社	休憩	自由
						復習(消費)	
16:00						休憩	
18:00	移動(暗記)			移動(暗記)		復習(簿記)	
20:00	講義 (簿記)	移動(暗記)	移動(暗記)	講義 (簿記)	移動(暗記)	移動(暗記)	
		自由	自由		自由		
22:00	移動(暗記)	復習(簿記)	復習(簿記)	移動(暗記)	復習(簿記)		
		復習(消費)	復習(消費)		復習(消費)	自由	復習 (予備)
0:00	自由	自由	自由	自由	自由		
2:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
4:00							

※ 移動時間を利用して、講義内容の復習や理論暗記を行う

3 あなたの学習プランは？

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00							
8:00							
10:00							
12:00							
14:00							
16:00							
18:00							
20:00							
22:00							
0:00							
2:00							
4:00							

テーマ 4 学習時間との兼ね合い

簿記論と財務諸表論を同時に学習することは、相乗効果を生みます。しかし、学習時間が不足した場合には、それぞれ良い結果を得ることができなくなります。1月から学習を開始した場合、両科目を学習するのに必要となる時間は、週当たり30～35時間（授業時間を含む。）となるため、下記の表を使用して学習時間が足りるかを確認するようにして下さい。

（単位：時間）

	月	火	水	木	金	土	日	合 計
学習時間								

最 後 に

本日は、お忙しい中、当セミナーに参加して頂きありがとうございました。

簿記論と財務諸表論は、学習内容で重なる部分が多く相乗効果が生まれるので、学習時間を確保できるのであれば、是非、簿記論・財務諸表論の一括合格を目指して下さい。

TAC税理士講座一同、皆さんの合格をサポートしますので、頑張ってください。